令和元年度　自己点検・自己評価　　総評

4　十分達成されている　　3　達成されている
2　取り組まれているが成果が十分ではない　　1　取り組みが不十分である

（%）

保育の計画性	①	園の教育理念や教育方針を理解し、園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。	73
	②	幼保連携型認定こども園　教育・保育要領を理解し深めている。	59
	③	教育課程を基に保育の計画をたてている。	62
	④	指導計画は幼児の興味や関心、子どもの姿を捉え、予想されるこれからの姿を考慮して作成している。	69
	⑤	子どもの発達や生活を見通して環境構成をしている。	63
	⑥	自分の保育を計画し、評価、反省を行っている。	70

保育の在り方と対応	①	年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行っている。	66
	②	個々の発達の姿や課題について見通しを持って理解している。	66
	③	子どもの思いを把握し、寄り添って保育できている。	76
	④	子どもが考え、工夫したりできるような見守り方をしている。	69
	⑤	子どもの姿を職員間で共通理解出来るよう、情報を共有している。	80

保育者としての資質や保育の質の向上	①	専門知識や技能を身に付けようと研修している。	66
	②	園の消耗品や教材を大切に使い、他者が使う時使いやすいようにしている。	79
	③	園内外の清掃や整理整頓を実行している。	69
	④	自らの健康にも配慮し、爪が伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気を付けている。	87
	⑤	組織の一員として良い保育を目指す意識を持っている。	80
	⑥	子どもの成長を捉え、それを喜びと感じる。	97
	⑦	園以外の生活で自分自身充実感を味わい、生活出来ている。	73

保護者への対応　地域とのかかわり	①	園での子どもの姿を具体的に伝え、保護者の話にも心を開いてよく聞く。	80
	②	保護者に対して節度を保ち、ていねいな対応をする。	81
	③	地域の自然や行事など、指導計画の中で位置づけて活用する。	63

研修と研究	①	研修会に自己課題を持って意欲的に参加している。	75
	②	保育していく上で自己課題を見つけ、研究している。	62
	③	園内の自然環境を理解し、保育に生かしている。	68
	④	配慮の必要な子どもに対応する保育のあり方を学んでいる。	62
	⑤	自らを高める為に色々な人とかかわり意見を聞くように心掛けている。	75

【次年度へ向けての課題】
日々の保育の反省し、どうすることが大切なのかを職員間で意見を交わし、共通理解をより深め保育の質の向上をめざす。
子どもたちにとってどういった環境、保育、配慮をすべきかを反省し、根拠をもってできるように考えて取り組む。
子どもの姿を学び専門性を高め知識を増やす。年齢別の子どもの発達に必要と思われることを理解していく。
教育・保育要領の理解を深め、保育を計画していく。園の自然環境に対しどのように保育を展開していくのかを考える。
研修で学んだことを保育の中へ取り入れていく。教材研究をもっと行い、環境構成をすること。

【次年度への取り組み】
日々の保育計画を立てて個々の成長に合った課題を考える。子どもたちにとっての遊び場を考えていきたい。
発達段階に応じた環境を整え、援助をしていきたい。保育にあたる。自己課題に対し研究していきたい。
目の前の子どもの興味、関心を把握し保育計画をたてたい。
室内環境について子どもの動線に合った配置、年齢別の興味に合った環境構成を考える。
保育者の専門性を高めていくため、研修や専門書を読み資質の向上に努める。
同僚性について意欲的に声掛けをしていく。子どもの人権、保育要領の読み合わせをしていく。
教育・保育要領に基づいた園務が実現されているかを問い直す。保育の歴史人物について学んでいく。
園内の現状把握に努める。疑問に思ったことを意見を出し合い話し合いを進める。